

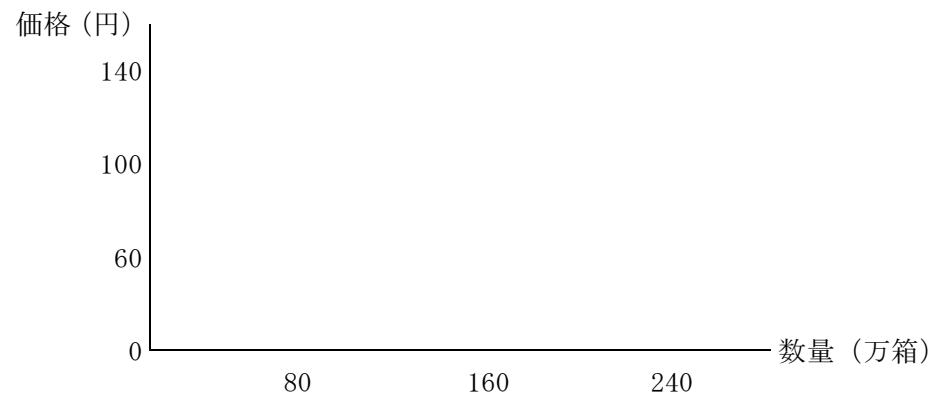
1. 市場経済とは

- (1) 市場とは→
- (2) 完全競争市場とは

2. 市場の均衡

(1) 需要曲線

【問題1】アイスクリームの需要曲線を記入しなさい。

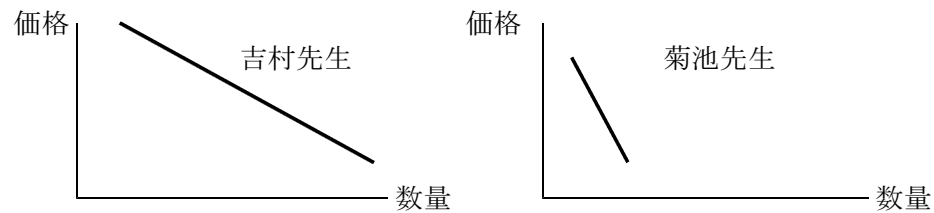


【問題2】新しい品種のおいしいみかんが発売され需要が高まった場合 ( $D_1$ ) と、人々の嗜好が変化しみかんの需要が下がった場合の需要曲線 ( $D_2$ ) を、上の図に点線で記入しなさい。

ポイント→一般に需要量が増えると需要曲線は ( ) にシフトし、需要量が減ると ( ) にシフトする。

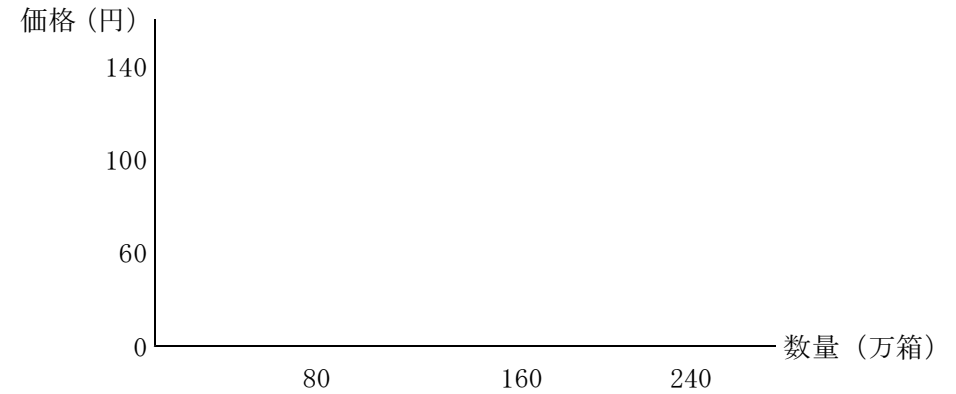
[需要に影響を与える要因]

【問題3】次のアイスクリーム需要曲線は吉村先生と菊池先生のものである。アイスクリームが好きなのはどちらか。



(2) 供給曲線

【問題4】アイスクリームの供給曲線を描きなさい。

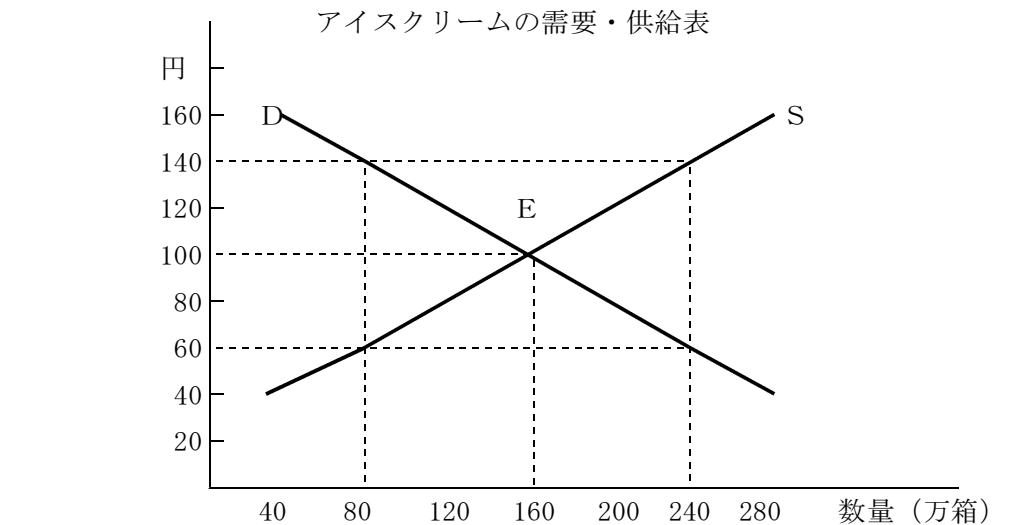


【問題5】みかんが不作で入荷量が少ない場合 ( $S_1$ ) と、豊作で大量に入荷した場合の供給曲線 ( $S_2$ ) を上の図に点線で記入しなさい。

ポイント→一般に供給量が増えると供給曲線は ( ) にシフトし、供給量が減ると ( ) にシフトする。

[供給に影響を与える要因]

(3) 均衡価格



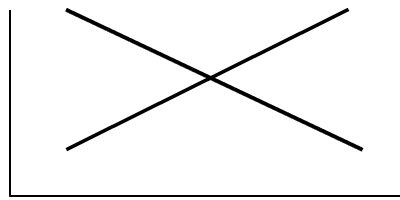
価格が140円の高とき → 企業が販売するのは ( ) 万箱

→ その価格で買う人は ( ) 万人 (箱)

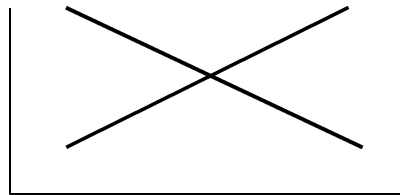


( ) 万箱が売れ残ってしまう  
 価格が60円るとき (安い) →企業が販売するのは ( ) 万箱  
 →その価格なら買いたいという人は ( ) 万人 (箱)  
 ↓  
 ( ) 万人が買えない (=足りない)  
 ↓  
 アイスクリームがすべて売り切れる価格→ ( ) 円 [ ]  
 " 数量→ ( ) 万箱 [ ]  
 ↓  
 価格の変化によって需要と供給の不一致が解消されて  
 市場の均衡が実現する→

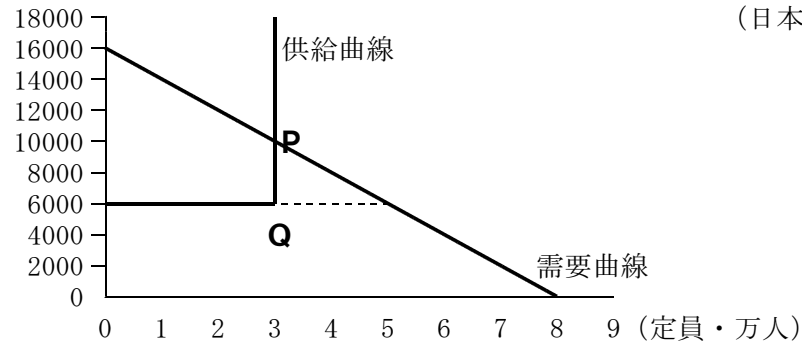
【問題6】 冷害でリンゴが不作の場合、均衡価格はどのように変化するか。(需要は同じ)



【問題7】 ルーズソックスをはく女子高生が減ると、均衡価格はどのように変化するか。  
 (供給は同じ)

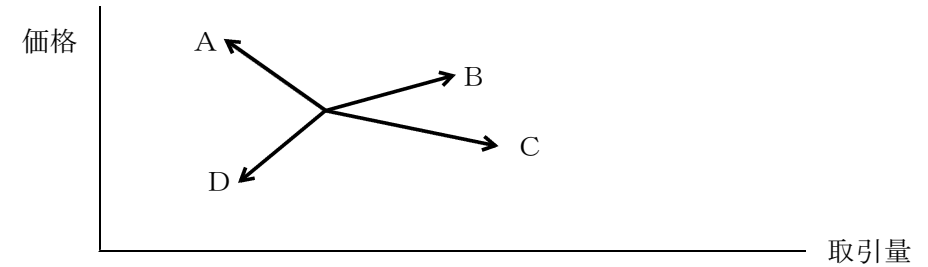


【問題8】 次のSMA Pのコンサートチケットの需要供給曲線について、以下の問いに答えなさい。ただし、チケットの価格は全席6000円、会場の定員は3万人である。  
 (日本武道館全3回公演)



- 問1 供給曲線はなぜ直角になっているのか。
- 問2 6000円でチケットを販売した場合、買えない人は何人か。
- 問3 チケットが完売となったときの売り上げ総額はいくらか。
- 問4 均衡価格でチケット販売すると、売り上げ総額はいくらか。
- 問5 なぜSMA Pはこのような(安い)価格設定にしているのだろうか。

【応用問題】 A～Dにの方向に均衡点が移動していく商品があるとして、どの商品の業界が将来有望か。もし、あなたが就職するとしたら、どの業界を選ぶか。



[参考文献]

『図解雑学ミクロ経済学』 嶋村紘輝・横山将義, ナツメ社  
 『明快ミクロ経済学』 荏開津典生, 日本評論社  
 『新しい経済教育のすすめ』 経済教育研究会編, 清水書院  
 『需要と供給の世界 (改訂版)』 林 敏彦, 日本評論社  
 『ハート&マインド経済学入門』 林 敏彦, 有斐閣  
 『マンキュー経済学 I ミクロ編』 グレゴリー・マンキュー, 東洋経済新報社

1. 市場経済とは

- (1) 市場とは→取引（売買）が行われている場
- (2) 完全競争市場とは
  - ①同じものが販売されている
  - ②売り手と買い手が多数存在しかつ小規模



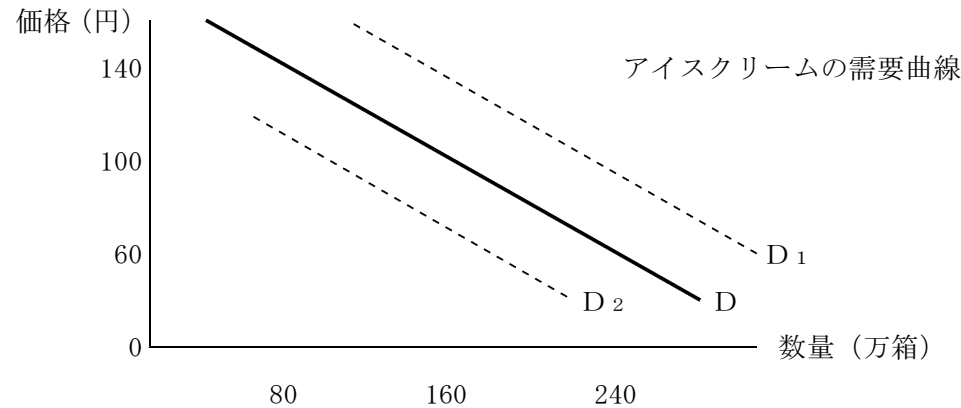
野菜・くだもの、株式・外国為替市場など

完全競争市場ではないもの→売り手が1社しかない（独占市場） ※買い手も  
→売り手が少数しかいない（寡占市場）

2. 市場の均衡

(1) 需要曲線

【問題1】 買い手の需要価格を縦軸に、取引量を横軸にとり、需要曲線を記入しなさい。



\*買い手の心理→①少しだけ買うなら高くてもよいが、たくさん買うなら安くなければ買わない。②高いのならば他の商品を買う。(代替効果)

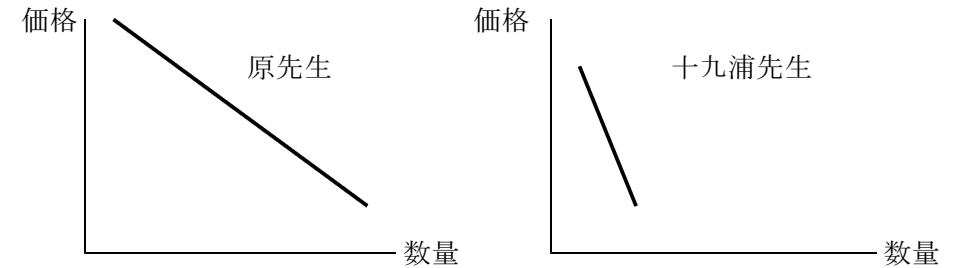
ポイント→一般に需要量が増えると需要曲線は（右方）にシフトし、需要量が減ると（左方）にシフトする。

【問題2】 新しい品種のおいしいみかんが発売され需要が高まった場合（D<sub>1</sub>）と、人々の嗜好が変化しみかんの需要が下がった場合（D<sub>2</sub>）、需要曲線はどのように移動するか。上の図に点線で記入しなさい。

[需要に影響を与える要因]

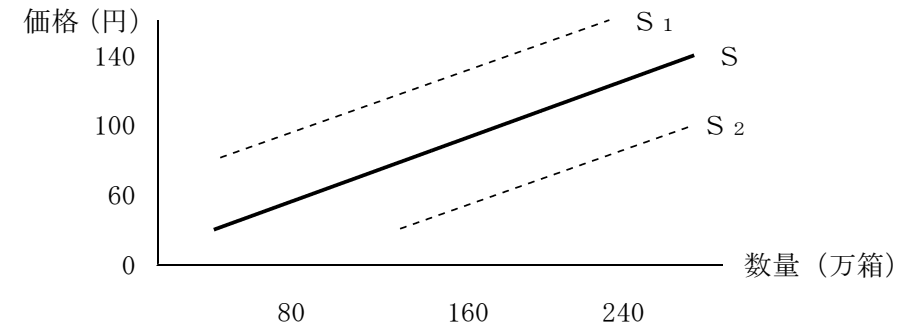
→価格、所得、嗜好（好み）、天候、宣伝・広告など

【問題3】 次のアイスクリーム需要曲線は原先生と十九浦先生のものである。アイスクリームが好きなのはどちらか。



(2) 供給曲線

【問題4】 売り手の供給価格を縦軸にとり、取引量を横軸にとり、供給曲線を描きなさい。



\*安ければ薄利多売にすればよいのでは・・・？

・人件費がかかるので赤字になってしまう（安い→リストラなどで人件費を抑え利益を確保）、安ければ高く売れそうな別の商品に切り替える

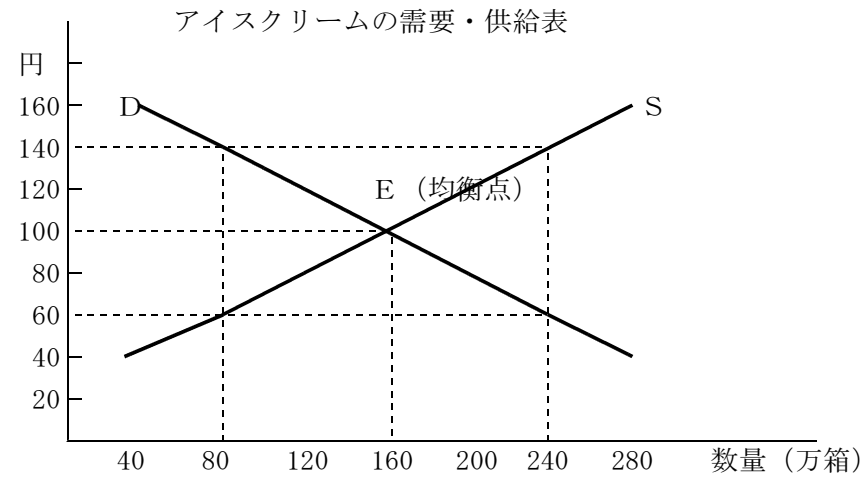
【問題5】 みかんが不作で入荷量が少ない場合（S<sub>1</sub>）と、豊作で大量に入荷した場合（S<sub>2</sub>）、供給曲線はどのように移動するか。上の図に点線で記入しなさい。

ポイント→一般に供給量が増えると供給曲線は（右方）にシフトし、供給量が減ると（左方）にシフトする。

[供給に影響を与える要因]

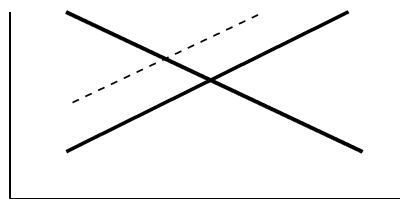
→価格、原材料費、生産技術、天候、政府の規制など

(3) 均衡価格

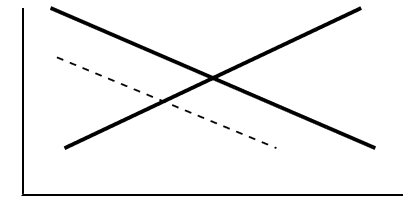


価格が140円するとき (高い) →企業が販売しようとするのは (240) 万箱  
 →その価格で買いたい人は (80) 万人 (箱)  
 ↓  
 (160) 万箱が売れ残ってしまう  
 価格が60円するとき (安い) →企業が販売しようとするのは (80) 万箱  
 →その価格なら買いたいという人は (240) 万人 (箱)  
 ↓  
 (160) 万人が買えない (=足りない)  
 ↓  
 アイスクリームがすべて売り切れる価格 → (100) 円 [均衡価格]  
 // 数量 → (160) 万箱 [均衡取引量]  
 ↓  
 価格の変化によって需要と供給の不一致が解消されて  
 市場の均衡が実現する → 市場の価格 (調整) メカニズム

【問題6】 冷害でリンゴが不作の場合、均衡価格はどのように変化するか。

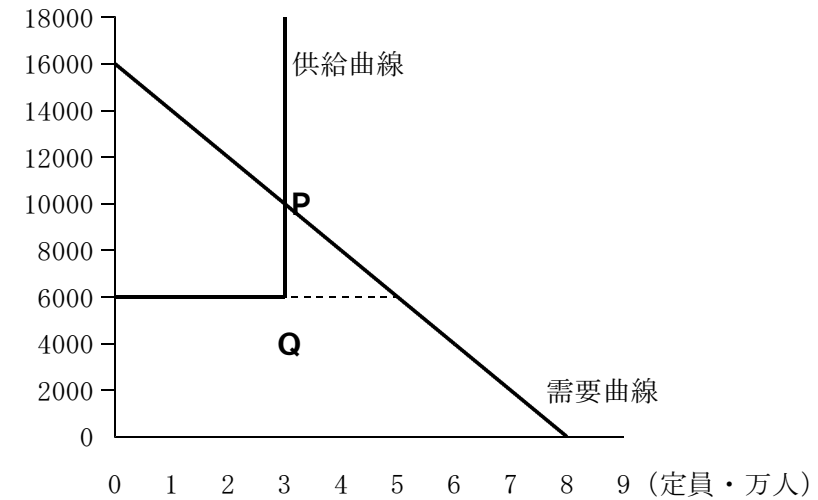


【問題7】 ルーズソックスをはく女子高生が減少すると、均衡価格はどのように変化するか。



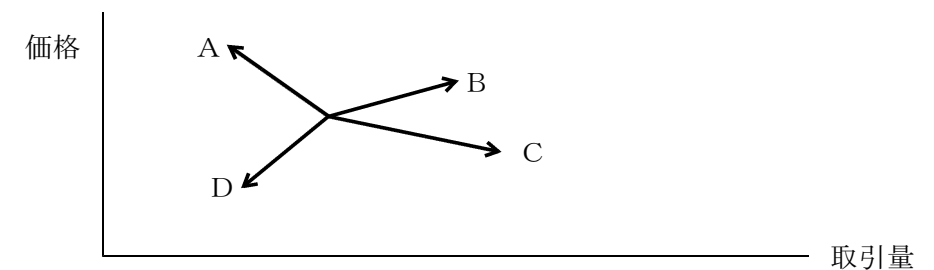
【問題8】 次のSMAPのコンサートチケットの需要供給曲線について、以下の問いに答えなさい。ただし、チケットの価格は全席6000円、会場の定員は3万人である。

(円) (日本武道館全3回公演)



- 問1 供給曲線はなぜ直角になっているのか。
- 問2 6000円でチケットを販売した場合、買えない人は何人か。
- 問3 チケットが完売となったときの売り上げ総額はいくらか。
- 問4 均衡価格でチケット販売すると、売り上げ総額はいくらか。
- 問5 なぜSMAPはこのような(安い)価格設定にしているのだろうか。

【応用問題】 A~Dにの方向に均衡点が移動していく商品があるとして、どの商品の業界が将来有望か。もし、あなたが就職するとしたら、どの業界を選ぶか。



A→少しだけ作って高く売る。(リスクが大きい。しかし優れた技術で高品質の商品を生産し続けていくのならば、それは経済と人生の達人である。ハサミ、ホイッスル)

B→価格も上がって取引量も増える。(流行)

C→企業努力によってコストが下がり需要が増す。(日本の自動車産業など)

D→価格が低下し、売れ行きも落ちていく。(リストラするので就職できない)

(『明快ミクロ経済学』荏開津典生, 日本評論社)

[参考文献]

『図解雑学ミクロ経済学』嶋村紘輝・横山将義, ナツメ社

『明快ミクロ経済学』荏開津典生, 日本評論社

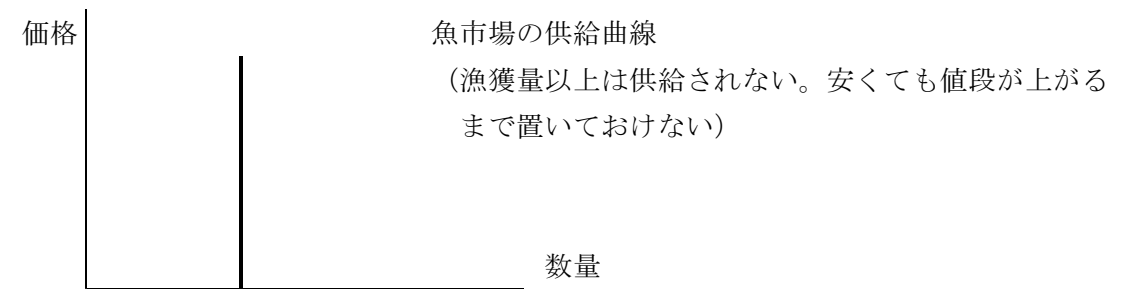
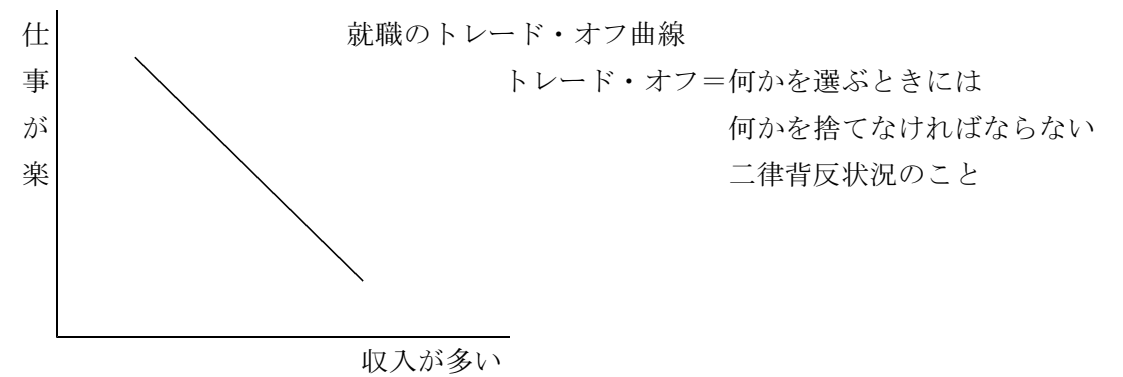
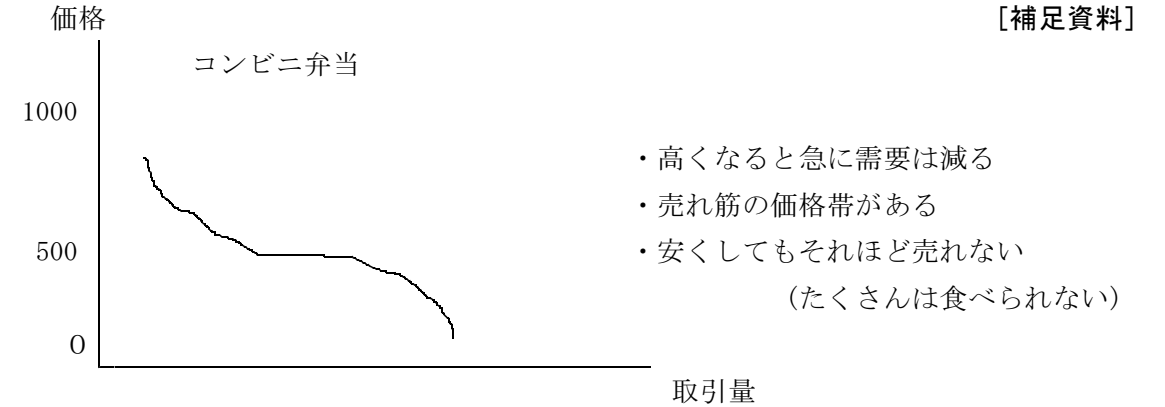
『新しい経済教育のすすめ』経済教育研究会編, 清水書院

『需要と供給の世界 (改訂版)』林 敏彦, 日本評論社

『ハート&マインド経済学入門』林 敏彦, 有斐閣

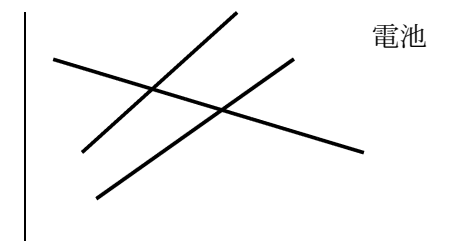
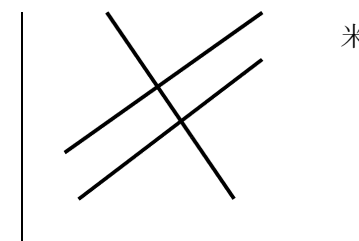
『マンキュー経済学 I ミクロ編』グレゴリー・マンキュー, 東洋経済新報社

『経済学のススメ』(千葉商科大学エクステンション委員会)



【応用問題 1】

価格が弾力性が低い商品と高い商品で、安売りするともうかるのはどちらか。



価格弾力性が低いものは 価格が下がっても需要が増えない →総収入は減少する（米農家の豊作貧乏）	高いものは価格が下がると需要が大幅 に増えるので総収入は増加する (ディスカウントストア)
---	---

### 完全競争市場とは

完全競争市場においては、供給者が無数、あるいは多数存在し、互いに競争している。価格は市場の需要と供給で決まり、供給者はこれを受け入れることになる。このような競争的な市場では、どの供給者も自分の供給量を減らして、価格をつり上げるようなことはできない。

経済学の教科書にはよく「パレート最適」と言う言葉が載っている。パレートはかなり昔のイタリアの経済学者である。彼は、「完全競争市場こそが資源の最適な配分を実現すること」を証明した。そして今日ほとんどの経済学者は、「パレート最適」の実現こそが市場経済にとって最も重要なことと信じている。したがって市場が十分機能するため、規制や政府の介入を極度に批難する。

たしかに市場に競争制限的な力が存在すると、価格は柔軟に動かなくなり、資源の無駄が生じる。ある商品の市場における競争が制限され、価格が高く維持されると、供給者側に超過利潤が発生し、供給者はその商品ばかり作ることになる。この結果、この商品は供給過剰となるが、価格は下がらないままで推移することになる。つまり経済全体で見れば、この過剰な商品を作るための原料や労働が無駄に使用されていることになる。

価格が統制されている社会主義国の経済を見れば、このことはもっと簡単に理解できる。たとえば当初の予想に反して消費者の需要が「靴」から「サンダル」に移っても、計画経済の国では市場が機能しないため、需給の調整が簡単にできない。この結果、「靴」の過剰と「サンダル」の不足が発生することになるが、この解消は難しい。そしてこの場合にはやはり資源の無駄が生じることになる。一方、市場経済では、このような時には「靴」の価格が下落し、「サンダル」の価格が上昇し、これらの価格が変化することにより、需給の調整が行われる。つまり市場経済においては無駄が最小限におさえられ、限られた資源が社会の効用を最大化するように使われるのである。

そして市場が機能して資源が最適に配分されるには、市場が競争的であること、理想的には「完全競争」であることが必要と主張されている。独禁法や公正取引法は、法律の面から市場の競争を促すことが目的である。また、今日よく主張される「規制緩和」も、市場への参入を促し、市場の競争を確保するためである。

しかし、現実には純粋な「完全競争」市場と言うものは存在しない。比較的に「完全競争」に近いと言う市場が存在するだけである。多くの場合には、参入が制限されていたり、供給者が組合を作り、提供する商品やサービスの価格に制限を加えている。ほとんど「完全

競争」と言う市場があっても、その商品は国民生活全体から見れば、比重はそんなに大きくないはずである。ところが今日、各分野で規制緩和が唱えられており、一般的に競争は激化する傾向にある。さらに関税の引き下げなど、交易条件も緩和の傾向にあり、日本国内の供給者はこの外国からも競争の圧力を受けている。

### 完全競争市場の過酷さ

先週号では企業を中心にした市場は寡占が一般的と述べたが、ほとんどの自営業や零細小企業は競争市場に置かれている。ただし前段で述べたように競争市場と言っても、完全競争状態ではなく、何らかの競争制限が伴っている。典型的な例は農業である。農業は農業関連法で保護されていたり、農家はほとんど農協の組合員である。零細小企業も大手企業の系列に属するケースが多い。もともと市場によっては極めて完全競争に近い場合もある。市場が完全競争に近づくほど、価格の維持は難しくなり、供給者にとって競争は過酷なものになる。しかし近年の貿易の自由化や規制緩和は、このような業界をターゲットにしているように思われる。今は大企業のリストラによる失業が話題になっているが、考え方やればこのような自営業や零細小企業の競争激化の方が深刻である。「米」も関税化が決定しているが、関税は将来的に低くなると予想される。つまり「米」は国内の競争に止まらず、今後は国際的な競争にさらされることになる。農業はどの国でも各種の制限などで保護されているが、このような保護がなければ、直ぐに過酷な完全競争の状態となる性質を持つ。

このような業界はこのような流れに対抗するため、自分達が供給する商品やサービスを差別化して、競争の激化を乗り越えようとしている。しかし、はたしてこれだけで今後一段と進行する規制緩和に対処できるか疑問である。特に農産物では、以前は数々の地方の名産と言うものがあつたが、既に最近ではことごとく中国などからの輸入品に市場を奪われているのが現状である。

たしかに規制緩和や競争激化は、価格の下落を招き、消費者にとっては良いことではあるが、供給者にとってはたまらない状況である。単純な経済学者はのんきに「競争」はパレート最適を実現する必須条件であり、パレート最適は資源の最適配分を決定すると今だに主張している。しかし、日本の現状を見れば、これだけ生産設備が余っており、失業者も300万人に達する勢いである。何故、生産資源が余っている今、資源の最適配分による資源の節約が一番重要な事柄なのか筆者にはとても理解できない。

競争が激化し、パレート最適が実現しても、国内にはそれによってつくり出された商品を買う購買力はない。つまり輸出に活路を見つける他はなく、その次には「円高」が来るだけである。

日本を都会と地方に分けると、基盤となる経済は地方の方が競争的である。一見、都会の

方が競争的に見えるが、都会の方はどちらかと言えば、来週号で取り上げる「寡占」下の競争である。地方は近年規制緩和が進み、一歩間違えると「完全競争」に陥る産業を多く抱えているのである。

筆者は、けっして市場の機能否定したり、規制緩和に反対しているのではない。今と言う時期が悪いのである。これだけ需要が落ち込んでいる今日、規制の緩和による競争激化は、新たなる失業を生むことになる。日本のような成熟した経済社会では価格が低下しても、消費はそれほど増えない。消費の価格弾性値が小さくなっているのである。このことは最近の経済指標の推移を見れば分かることである。これまで日本においては、国内向け産業は各種の規制で競争が制限されて来た。そしてこのことによって価格は維持されてきた。しかしこのシステムが国民の所得分配を平準化する働きを持っていたのである。端的に言うならば、民間が失業対策を行って来たようなものである。今日これが否定されている。しかし、今後この分野の競争激化により発生する失業には、何の受け皿も用意されていないのである。

<http://www.adpweb.com/eco/eco108.html>

**株式分割とは** (<http://www.dambo-33.com/kouza/division.shtml>)

「株式分割」とは、すでに発行されている株を2つとか3つに分割することです。

株式分割では、発行済株式数は増えますが、分割の前後で株主資本は変わらないため、株価は下がることになります。

株主資本とは、カンタンにいうと会社の持っているお金のことで、時価総額と同じものです。

「時価総額 = 発行済株式数 × 株価」

なぜ株価が下がるかというと、発行済株式数が増えても、上の式の左辺「時価総額」が変わらないように株価を調整することになっているためです。

たとえば、あなたが1000株持っている株が2分割したら、あなたの株数は2倍の2000株が増えて、「ラッキー♪ なにもしてないのに株が2倍になっちゃった。一気に資産2倍だ！ウヒヒッ。儲け儲け」と思っても、株価は2分の1になるわけですから、それはぬか喜びなワケです。なんかゴメンなさい。

株式分割の前と後では、基本的にあなたの持っている株の価値は変わらないということを覚えておいてください。

株式分割のメリット

- ・ 配当金が増える

分割後も配当額がかわらなければ、分割した株数の分多くもらえます。逆に、配当が減ることはないのか？ といわれると無いとは断言できませんが、配当が変わらないケースは多いです。

「それじゃあ増配と変わらないんじゃないの？ 分割する意味は？」と思うかもしれませんが。増配との違いは「現金か現金でないか」ということです。それ以上の深い違いは僕にはわかりません。

- ・ 売買しやすくなる

分割によって、株価は下がります。10万円の銘柄が1：2の分割（2分割）をしたら株価は1/2の50000円になるので、お金が少ない人でも買えるようになりますし、細かく投資できるようになります。

売買しやすくなると、流動性があがり、以前よりも人気化する可能性も出てくるというわけです。

- ・ 株価が上がる？

これは幻想です。基本的に、分割の前後で企業の価値は変わりませんので、株価が上がることはありません。

ただ、成長企業が株式分割をしやすい傾向があるため、分割と聞くとたくさんの投資家が群がって、マネーゲームのように株価が乱高下することがあります。